

研究課題	アントラサイクリン心不全の早期発見のための地域連携の確立に向けた研究
支援番号	GC03720223
研究事業期間	令和4年4月1日から令和7年3月31日
助成金総額	1,040,000
研究代表者 (所属機関)	大倉 裕二（新潟県立がんセンター新潟病院 内科（腫瘍循環器科））
研究分担者 (所属機関)	猪又孝元（新潟大学医歯学総合病院循環器内科）、西條康夫（新潟大学医歯学総合病院腫瘍内科）、佐藤信昭（新潟県立がんセンター新潟病院乳腺外科）、菊池朗（新潟県立がんセンター新潟病院婦人科）、土田圭一（新潟県立新発田病院循環器内科）、坂田英子（新潟市立新潟市民病院乳腺外科）
研究キーワード	アントラサイクリン 心不全 リマインダー BNP 広域連携
研究実績 の概要	<p>【研究成果 ①】 Increasing survivors of anthracycline-related cardiomyopathy with breast cancer in trastuzumab era: thirty-one-year trends in a Japanese Community. Breast Cancer. 2024;31:1080-1091.</p> <p>内容：乳がん患者を対象にアントラサイクリン(AC)心筋症(ARCM)の疫学調査を市内3病院で実施した。</p> <p>意義：わが国初のARCMの長期観察研究</p> <p>重要性：心筋症の発生率は低下しているのに患者数が増加中</p> <p>提言：AC治療後のがんサバイバーに対する長期間のフォローアップ体制を医師会とともに構築してゆく</p> <p>必要性がある。</p> <p>【研究成果 ②】 A Prefectural Survey on Anthracycline-Related Cardiomyopathy at the Start of the Basic Plan to Promote Cancer Control Programs – Phase 4. Circulation Reports. In press.</p> <p>内容：AC治療を実施する、県下の病院に勤務する循環器内科医と指導的がん治療にアンケートを送付して、ガイドライン推奨事項の認識や実施について調査した。また、各病院の循環器内科とがん診療科の連携の状況について調査した。</p> <p>意義：ARCMに対する病院の取り組みの現状をわが国で初めて調査した。</p> <p>重要性：ガイドライン推奨事項の認識は高かったが実施は不十分だった。連携は心筋症が発症してから行われることが多く、事前に早期発見のための連携を行っている病院は少なかった。</p> <p>提言：個人の知識を実践に、診療科の事前相談を有志レベルから診療科レベルに、さらに院内連携レベルに、院内連携をがん拠点病院から一般病院に広げてゆく必要がある。医師会とともに医師会員の知識の</p>

アップデートと医師間の連携推進を行ってゆく必要がある。

【研究成果 ③】 A Prefectural Survey on Immune Checkpoint Inhibitor-Associated Myocarditis at

the Start of the Basic Plan to Promote Cancer Control Programs – Phase 4.

Circ Rep. 2025;7:176-182.

内容：研究期間中に免疫チェックポイント阻害薬(ICI)関連心筋炎(ICIAM)の致死例が続いたため、急遽、

ICIs 治療を実施する県下の病院に勤務する循環器内科医と指導的がん治療にアンケートを送付して ICIAM の

の認識や治療経験や早期発見の取り組みについて調査した。ARCM 研究の枠組みを生かした。

意義：ICI 関連心筋炎に対する病院の取り組みの現状をわが国で初めて調査した。

重要性：ICIAM の臨床経験があると回答した循環器内科医は 31.8%、指導的がん治療医は 24.4%と低かった。

ベテラン医師は、若手医師よりも ICIAM の経験が少かった。免疫療法を行う 20 病院での両科間の相談では、

回答が一致したのはわずか 5 病院(25%)であった。

提言：ARCM と比較して、循環器内科医も指導的がん治療医も ICIAM の経験が少なく、組織的な対策も乏しく、

部署間の連携は脆弱性だった。病院では心臓専門医と腫瘍専門医の連携を促進する必要がある。

※研究実績については、「アントラサイクリン心不全の早期発見のための地域連携の確立に向けた研究」

を 2025 年 4 月 30 日に寄稿したので参照していただければ幸甚である。